

交通事故死「0」の日 2500日達成

北海道知事から感謝状

このたび町では、6月20日をもって交通事故死「0」の日2500日を達成しました。

めざせ! 3000日

記録達成に22日には、後志支庁の神姿子地域政策部長が来町し、町長室で福井貞吉町交通安全協会会長と川井順應町交通安全指導員会長が同席する中、益子町長に対し北海道知事からの感謝状と北海道交通安全推進委員



会から表彰状が伝達されました。



交通死亡事故は、平成12年8月15日、RV車が日司泊の橋の欄干に追突した単独事故から発生しておらず、全道では第8位、後志管内では、神恵内村に次いで第2位の記録となつています。今後地域総ぐるみで交通安全の推進に努め、交通事故死「0」の記録を途切れさせることなく、積丹町から交通事故の根絶を目指しましょう。

「北海道遺産」のまち強調 街路灯バナー 一新



本格的な観光シーズンを前に積丹観光振興推進協議会会長・山本俊三商会会長は6月19日、美国町国道沿いの街路灯のバナー(広告旗)を一新しました。それまでのバナーは、平成8年の街路灯設置に併せ取り付けられたもので、色あせや破損が

著しくこのたびデザインを一新し取り替えを行ったものです。新たなバナーは白地に積丹ブルーの青色で波を表現したものをバックに、北海道遺産のロゴを強調させ、オレンジ色の町花エゾカンゾウを添えたデザインとなっています。

彩り鮮やかにお出迎え 商工会がプランター設置

町商工会(山本俊三会長)は、6月27日、美国町の国道沿いにプランターを設置しました。これは、同会が実施している計画事業の一つで、毎年余市高校園芸科から購入し設置しているものです。

今年、ペチュニアの苗264本を66個のプランターに植え込み、同会員3人により舟形をした台の中にプランターを設置していきました。本格的な観光シーズンを迎え彩り鮮やかな花々が行楽客の目を楽しませてくれることでしょう。

今年、ペチュニアの苗264本を66個のプランターに植え



楽しく学んだ森林の働き 美国小学校3・4年生森林学習

美国小学校の3・4年生

による森林のはたらきや森林の大切さを考える総合的な学習「森林学習」が6月13日、余別町のサンクチュアリーセンター隣の町有林で行われました。

森林学習では、後志森づくりセンターから3人を講師に迎え、森の中を散策しながら森の働きや木々の名前、特徴などについて説明を受けました。



また、木の枝はらいでは、大きなヘルメットをかぶりノコギリを持って講師に手を添えてもらいながら3m位の高さの枝切りを一人ひとり体験しました。

最後に、ナナカマドやアカイタヤ、ブナなど約30本の苗木の植樹も行った児童たちは「木の名前や特徴など色んなことがわかって楽しかった。」と口をそろえて話していました。

なお、この学習は全4回実施され、押し葉や自然素材を利用したクラフトづくりなども行われる予定となっています。



自分たちの住む町きれいに 日司小学校が海岸清掃

日司小学校（嶋田耕司校長、児童9人）は7月6日、日司海岸の清掃作業を行いました。これは、青少年赤十字活動の一環として、既に5月10日に1回目の海岸清掃を実施しており今回は2回目。児童たちは、手袋をはき火ばさみを片手にごみを拾い集めました。約1時間の清掃作業で木片や漁網といった漂着ごみや空き缶やペットボトルなどのごみが集められました。佐藤辰哉（小6）くんは「きれいな町を守るためこの活動はこれからも続けていきたいです。」と話していました。海岸清掃は9月に3回目も予定されています。



愛情込め10年

田中仲子さんの「びわ」実る

田中仲子さん（余別町）の鉢植えしたびわの木に、このほどオレンジ色した実をつけ道行く人の目を惹かせています。田中さんは、平成9年に白方さんからいただいた苗木を鉢に植え、夏は庭先に、冬は室内に移し育ててきました。昨年の秋に初めて白くぷっくりとした花が20輪ほど咲き、今年の春1・3m位に成長した木の枝先に2つ実がついているのを確認、現在は10cmほどに実つ

ています。びわは一般に温暖な地域で栽培されており、東北や北海道などの寒冷地では商品として出荷されることはなく、後志農業改良普及センターでは「家庭菜園として育てているところはあがる温度管理など手間がかかり栽培は難しく大変め

